

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	年次	1年	単位数	2
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）		副教材	生活学 Navi 資料+成分表 2026（実教出版）			

1 科目の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 学習について

① 予習・復習の方法

予習：授業の教科書2頁程度を読んだり、資料集を調べたりしておこう。

復習：授業を通して、理解できたこと、分からなかったところを確認する。

② 授業における学習方法

授業を大切に、要点をプリントにまとめ、授業時間内に理解しよう。実験・実習などで自ら体験することは大切です。積極的に参加し、学習の楽しさや成就感を味わおう。

③ 家庭学習のポイント等

宿題は、指示された期間内に必ず自分の力で調査や、事前学習をしておくようにしよう。

3 学習計画

		単元名（学習項目）	学習内容（ねらい）
前期	前期 中間	・家庭クラブと ホームプロジェクト ・生涯を見通す ・人生をつくる ・超高齢社会を共に生きる ・共に生き、共に支える	・1年間の自分の課題を明確にし、学校家庭クラブ活動の意味と活動内容を理解する。 ・様々な生き方を理解し、自分らしく生きることについて考え、ライフプランを工夫する。 ・青年期の課題を理解し、家族・家庭の変化や家族と社会の関わりについて理解を深める。 ・家庭クラブ週間の行事に参加する。 ・高齢者インタビュー高齢者の疑似体験により高齢者の生活や特徴を理解し高齢者福祉について理解を深める。 ・共生社会の支援システムやユニバーサルデザインについて理解し、考察する。
	前期 期末	・衣生活をつくる ・子どもと共に育つ	・健康で快適な着装を考え、被服材料の特徴を知り、被服管理ができる力を身に付ける。 ・自分の生活を見直し、改善できるテーマを選択し、実践活動ができるよう計画を立てる。
後期	後期 中間	・食生活をつくる	・食品の栄養的特質や、調理上の性質を理解し日常生活に関連させる。 ・現代の食生活における問題点に関心をもつ。 ・調理実習の作業手順やグループの協力など反省・感想をまとめる。
	学年末	・住生活をつくる ・経済生活を営む ・持続可能な生活を営む ・これからの生活を創造する	・住居の機能性や健康的な住まいを考える。 ・防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫について理解を深める。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、契約の重要性を理解する。 ・悪質商法などのトラブルや消費者保護の仕組みについて理解を深め対策を考える。 ・持続可能な社会の構築に向けて、環境に調和した生活の重要性を認識し、環境と自分の消費行動とのかかわりを考える。

4 観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活に必要な知識と技術を習得することができる。	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、幅広い視野と考えを持ち、深めることができる。	男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と態度を身に付けることができる。

5 評価方法

計70時間（50分授業）

出席状況、授業態度、定期考査、提出物（学習プリント・課題・作品）、学校家庭クラブ活動参加状況

知識・技能…30% 思考・判断・表現…35 主体的に学習に取り組む態度…35%

